

「第2の故郷」に寄り添う

「18年暮らした石巻は自分の『故郷』。踏みどまった選択は間違っていないかった」
東日本大震災で被災し、一度は帰国を考えたものの途中で引き返し、石巻に残った英国人男性、それが石巻専修大学で英語を教えるリチャード・ハルバーシュタット理工学部准教授だ。

R・ハルバーシュタット 石巻専修大学准教授

3月11日の「その時」、リチャードさんは石巻専修大学の研究室にいた。同キャンパスは、立地の良さと頑強な建築により、大きな損傷はなく、津波による冠水も免れた。
数日後、自宅に戻ると、浸水した中心街に出て、被害の大きさに言葉が失った。幸い自宅のマンションは、室内では物が散乱していたが、津波でダメージはなかった。
17日、在日英国大使館から緊急連絡が入った。地震・津波災害と福島第1原発の災害に際し、圏外から避難を勧められた。外への退避を勧めると、周囲の友だちに相談すると「帰国した方がいい」という人がほとんどだった。「迷いに迷いました」
19日、大使館が用意した迎えの車に乗り込み、仙台のホテルに一泊。そこでも迷い続けた。

帰国の勧め—石巻に留まる

「いい街に戻りたい」

その夜、震災後に初めてテレビを見ると、石巻の様子が映し出された。がれきの中でおぼあちゃんや泣いていた。なにもかも無くなった。笑ってがんばるしかないねえ。
「私は身体も家も勤務先も無事。それなのに大変な思いをしている石巻の人たちを置いて、『じゃあね』ってさよならして、自分だけおいしい思いをしようとしている。なんて腰ぬけなのだろ

吹っ切れたその夜は熟睡しませんでした。
英国レディング出身のリチャードさんは大学で日本語を専攻。88年から2年間山形県鶴岡市の高校で英語を教え、日本が好きになった。
レディング大学大学院で応用言語学の修士号を得て93年に再来日し、石巻専修大学に。以来18年、東北の港町に溶け込んだ。

「居心地のいい街。もう一度そんな石巻にしたい」
リチャードさんの頭の中には、復興プランが描かれている。



ビートルズやイーグルスの名曲を熱唱するリチャードさん(中央)数年前の北上川フェアで

震災により多くの知人を失い、相談相手だった金物店の夫婦は津波にのまれた。追悼の涙は乾かない。
「きつい仕事は無理。リーダーシップを取るタイプでもない。でも、みんなのそばにいただけでなにかの役に立つ」と、「故郷」に寄り添うことを心に決めた。
支援物資を配り、被災した友だちの店の片づけの手伝いや泥さらいもした。「教え子」たちには「戻ってきてくれてうれしい」と声をかけられた。
津波から6カ月。風景は少しずつ変わり、街は復旧へ一歩一歩、歩み続けている。



石巻の夏の風物詩「石巻川開き祭り」にハッピ姿で参加(95年夏)

翌朝、東京行き最後の長距離バスを見送り、石巻に戻った。前日、涙で別れた仲間たちと、喜びの涙で再会。「迷いが

「東日本大震災」により被災した学生等に対する支援金のご協力を
「東日本大震災」により、被災した学生への奨学金及び生活支援金等として、下記により支援金を募集しております。皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。
【郵便振替(郵便局からの振り込み)】
備え付けの用紙を使用してお振り込みをお願いします。通信欄に大学との関係等をご記入ください。なお、手数料はご負担くださいますようお願いいたします。
口座記号番号:00140-1-612204
加入者名:学校法人専修大学寄付金口
寄付者のご芳名を大学広報紙「ニュース専修」と大学のホームページ上に掲載します。
※この支援金は寄付金控除の対象となります。
専修大学募金局 ☎03(3265)3157

キャリアデザインセンター

課題解決型インターンシップ

「サマーミュージアム」で 生田緑地の魅力を発信



ライブステージなどさまざまな催し物で生田緑地の魅力を発信するイベント「生田緑地サマーミュージアム」が8月7日(文)に開催された。地域住民と交流を深めようと、観光協会、地元商店有志に専大生ら地元の大生が実行委員に加わり、企画や運営に参加した。専大生10人は、3つの部会に参加

キャリアデザインセンター(センター長 小林隆ネットワーク情報学部教授)では、川崎市内の企業・自治体・NPO法人などが抱える課題に、学生たちが若い行動力を生かして主体的に取り組み、解決策を提案する「課題解決型インターンシップ」を実施している。8月に行われた2つの活動を紹介します。



8月21日、川崎市多摩区丸山雄也さん(ネット情報二ヶ領せせらぎ館で行われた「第7回多摩川夕涼みコンサート」(主催 NPO 画・運営に携わった。O法人多摩川エココミュニティ、多摩区役所)には、課題解決型インターンシップでは第5回から参加し、地域交流に貢献している。今回はコンサートのMC、会場入り口を彩ったモザイクアート作成のほか、水鉄砲やペットボトルロケットなどのエコおもちゃ

紙バックとエコキャン
ドルの灯籠で彩った
子どもたちに好評の「アクリ」の紙人形劇
丸山さんは「学外



への応援メッセージをつづる白布も用意され、来場した阿部孝夫川崎市長も激励の言葉を書き込んだ。実行委員長として地元有志や法政・明治大学の学生とともにイベントを作り上げてきた丸山さんは「学外の方と一緒に大きなイベントに携わる貴重な機会であり、良い経験になりました。来場者も実行委員も『楽しい』と感想を話してくれ、うれしいです。参加して本当に良かったと思います。今回、地域の方や、他大学の学生と新たなつながりを作ることができました。このつながりを今後も大切にしていきたいです」と話した。

「多摩川夕涼みコンサート」 専大生43人が実行委員に

「多摩川夕涼みコンサート」実行委員に専大生43人が参加した。会場には、学生と新たなつながりを作ることができました。このつながりを今後も大切にしていきたいです」と話した。



リユースのポスター